

わがまち紹介

神栖市

魅力ある 誇れる 神栖市を目指して

株式会社筑波銀行 神栖支店長
小林 英将



神栖市長
石田 進氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県神栖市です。筑波銀行神栖支店長 小林 英将が神栖市長 石田 進氏にお話を伺いました。

地域資源を生かした まちのにぎわいづくり

2017年に神栖市長に就任し、現在2期目の市政運営にあたっています。まちづくりの将来像を「魅力ある 誇れる 神栖市を目指して」と定め、各施策に取り組んでいるところです。

「魅力ある 誇れる」まちづくりのための重要施策の一つが、地域資源を有効活用した「まちのにぎわいづくり事業」です。

神栖市の市名は、本市の魅力を語るときに欠かせない「神之池（ごうのいけ）」と「息栖（いきす）神社」に由来します。事業はこのシンボリックな2か所を中心に進めています。

神之池は、周辺を公園として整備した「神之池緑地」として、園内に市民体育館や武道館、文化センターなどの運動・文化施設もあり、市民の憩いの場として親しまれています。池畔には約2,000本の桜があり、春には毎年かみす桜まつりが開催される桜の名所でもあります。しかし老木化が進んでおり、将来にわたって桜の名所として受け継いでいけるよう、事

業の一環として桜の再配置計画を策定しました。

桜の種類を増やすとともに、春以外にも来園者に楽しんでもらえるように、梅やみかん、柿などの果樹も植樹していく予定です。2024年5月には神之池緑地の桜と緑の保全を担う有志のボランティア団体「神之池桜守隊」が発足しました。講習会の参加や樹木パトロールなど、精力的に活動していただいています。

池の周囲には一周約5kmのランニング・ウォーキングコースがあり、多くの市民が利用しています。また、カヌーの拠点としても知られており、2019年の茨城国体でカヌー競技が実施されました。地元の波崎柳川高校はカヌーの強豪校です。

今後は、神之池で充実したカヌーのトレーニング等ができる環境に整えるとともに、体験教室の開催などによりレジャーとしての魅力発信に努めていきます。

さらに、市民から要望の多かったカフェ施設として、2023年5月に緑地内にスターバックス コーヒーがオープンしました。リニューアルした子ども向け遊具も好評です。

これからも、市民の皆さんと一緒に神之池緑地全

体を魅力ある公園にするための取り組みを続けていきます。

息栖神社は約1800年の歴史を有し、鹿嶋市の鹿島神宮、千葉県香取市の香取神宮とともに「東国三社」の一つに数えられています。以前はあまり知名度が高くありませんでしたが、この3つの神社を巡る「東国三社詣」やパワースポット巡りブームとともに、メディアなどに取り上げられて注目を集め、参拝者が増えています。また、夕日のきれいな場所としても知られており、わたしは日本有数の夕日だと自負しています。

この息栖神社の魅力を高めるため、拠点施設の整備やイベントで活用可能な駐車場の整備、石畳風の市道整備、船だまり周辺の景観整備などを進めています。

これらの地域資源の魅力を高めるためには、市の事業も必要ですが、何よりも市民の皆さんに誇りを持ってもらうことが大切です。市民の皆さんに「神之池、息栖神社はいいぞ」と感じてもらい、「やっぱり桜見物だったら神之池だね。あとは息栖神社に回ってお参りして帰ろうか」というようなコースが、自然と市民の皆さんの口にのぼることが、ひいては周辺のまちに広がり、交流人口の増加につながっていくと思っています。



整備の進む神之池緑地

市民と企業に寄り添う 医療体制の確立

地域医療の整備は、市長就任時からの重要政策の一つです。市長公室に「地域医療推進課」を設置し、医師確保、医療機関の整備など、市民と企業に寄り添う医療体制の確立を目指しています。

医師確保対策として、本市では「神栖市若手医師きらっせプロジェクト」を推進しています。本プロジェクトでは、充実した教育研修環境づくりを進め、本市で医療に関わるおもしろさを体感してもらうことを目指すと同時に、就業支援・雇用促進なども実施しています。市内の医療機関に就業した若手医師からは、「大病院に比べて臨床経験を多く積むことができ、症例の検証にも取り組める環境が魅力」という声もいただいています。

また、産業医や社会医学系専門医の育成支援の

ための補助制度を創設し、2022年4月に民間医療施設として日本で初めて、本市の拠点病院である神栖済生会病院と白十字総合病院内に設置された「神栖産業医トレーニングセンター」を支援しています。これまでに10人以上の医師を受け入れており、立地企業の産業医としての業務はもちろん、拠点病院での外来診療や健診業務等幅広く活躍してくれるものと期待しています。

大学病院との連携にも取り組み、これまでに筑波大学、日本医科大学、順天堂大学の寄附講座を実施したほか、東京女子医科大学にも実施を依頼しています。これだけ寄附講座を実施している県内自治体はほかにはないと思います。

また、2024年度は鹿嶋ハートクリニック、産業医トレーニングセンターでの医師の新規就業のほか、本市の修学資金貸与制度を利用した医師が7月から神栖済生会病院での就業をスタートしており、取り組みの成果を実感しているところです。

医療機関の整備にも力を入れています。本市では診療所不足が問題となっていたため、市長就任時から診療所の誘致を進めた結果、市長就任前と比べ市内の診療所が8か所新設されました。

拠点病院の一つである白十字総合病院では、回復期・慢性期病棟の建替整備事業を進めており、2024年11月に新病棟がオープンする予定です。

もう一つの拠点病院である神栖済生会病院は、茨城県と本市の助成により、増築・改築工事の計画が進行しているところです。

循環器医療に秀でた鹿嶋ハートクリニックは、2016年に鹿行地域初の開胸手術を成功させたことでも知られています。最新鋭の手術室を設置し、2024年度内に23床の病院として新たなスタートを切るとともに、循環器の救急診療を365日体制で担う予定です。

企業誘致で強みとなる、企業に安心してもらえる医療体制の構築に向けては、「企業・医療機関・行政連絡調整会議」を設置し、医療をテーマに市内各地区のコンビナートの代表企業、市内医療関係者、市、保健所、消防本部などが直接意見を交換する場を設けています。この場での議論は、市の若手職員や病院関係者のモチベーションアップにつながっています。

また、地域医療推進課では、市内で発生した「不応需（救急指定病院で救急車の受け入れができないこと）」をチェックし、救急医療体制の問題点などを洗い出し、改善に向けた取り組みを行っています。

本市では、市民の皆さんと地域医療体制の現状や課題、各種取り組みについて情報共有を図る目的で「みんなが創る！みんなで守る！かみすの医療プロジェクト」を行っています。この取り組みが2023年度に、第五回「上手な医療のかかり方アワード」厚生労働省医政局長賞を県内自治体として初めて受賞し、担当課職員の励みになっています。



神栖産業トレーニングセンターに赴任した先生方と石田市長

市民生活に直結する 重要インフラを整備

市民の安全・安心に関わることは、行政にしかできないことが多いため、行政主導でやるべきことと考えています。そのため、市長就任時より医療体制整備と合わせ、防災・減災に最優先で取り組んできました。

その象徴的な事業の一つが、「北公共埠頭雨水幹線整備事業」です。本市の中心市街地は、大雨が降るとたびたび道路冠水や住宅・店舗等の浸水被害に悩まされてきました。こうした被害を防ぐために2013年に本事業を開始し、10年以上の期間を費やし2024年6月に竣工しました。巨大雨水管を地中に整備し、雨水を中心市街地から鹿島港へ排水するという一大プロジェクトにより、大雨時の道路冠水や浸水被害の軽減効果が現れています。

また、市内の配水管や配水場等の老朽化が課題となっていることから、「水道施設更新計画」を策定し、市内水道施設の更新・耐震化を進めています。

排水や下水、水道などは、目に見えづらいものですが、市民生活に直結する重要なインフラです。必要な公共事業は起債をしてでも取り組む必要があります。財政力指数などを気にしすぎて公共事業を控えることは、かえって将来世代の負担を増やすことにつながります。

ごみ処理施設の老朽化による処理費用の拡大に対しては、「鹿島共同可燃ごみクリーンセンター」を建設して対応しました。2024年4月1日から本稼働し、本市としては、令和6年度において、3億数千万円の経費削減につながる見込みです。



巨大雨水管の内部

スポーツツーリズムによる 地域活性化を目指して

元気なまちの条件の一つは、働く場所があることで

す。本市は鹿島臨海工業地帯などに立地企業が多くあることが強みですから、これを活かして積極的な企業誘致に取り組んでいます。

その一環として、市内に新增設した事務所等に係る固定資産税を3年間免除する制度を平成16年度から継続して実施しています。また、2023年12月には奥野谷浜工業団地の用地10ヘクタールが売却され、新たな企業が進出する予定です。

スポーツツーリズムによる地域の活性化にも取り組んでいます。観光振興課に「スポーツツーリズム推進室」を設置し、本市の温暖な気候と豊富な運動施設を生かしたスポーツ大会の開催や合宿、宿泊をともなうスポーツイベントの開催などをサポートしています。

今年は大きな成果が出ています。スポーツ関連施設・設備が充実した「かみす防災アリーナ」の存在も大きいのですが、規模の大きな合宿、大会をいくつも誘致することができました。大会や合宿、イベント等の規模に合わせてホテル、旅館・民宿等でうまくすみ分けてもらうことで客室稼働率の向上を図り、宿泊事業者の方にもスポーツツーリズムの成果を実感してもらいたいと思います。



かみす防災アリーナ

筑波銀行に期待すること

筑波銀行には地場産業の育成を頑張っていたが、育てた企業が今はこのように成長しているという事例を積み上げていただきたいです。

また、本市には大企業から中小零細企業まで多くの企業が立地しており、農商工のバランスの取れたまちです。範囲は広いですが、きめの細かい対応をお願いします。

筑波銀行には、コロナ禍において他市に先駆けて行った利子補給にご協力をいただき、ありがとうございました。これからも共に力を合わせて、地元産業、企業の振興を支援できればと思っていますので、市と同じベクトルで支援をお願いできればと思います。

(取材日:2024年8月30日)



神 栖 市

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていた
だいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

医療の道を目指す学生を応援します！

神栖市では医学生に向けた「支援制度」を設け、将来、神栖市で働きたい医学生を対象
に修学のための資金をサポートしています。



神栖市医師修学資金貸与制度

興味がある方は随时お気軽にご相談ください。

市内にある医療機関の医師として働こうとする国内外の大学生、大学院生を対象に修学資金を貸与します。
卒業後、貸与を受けた期間に相当する期間を市内医療機関で勤務することによって資金の返還が免除されます。

対象者

- 学校教育法に規定する大学・大学院の医学を履修する課程に在学する者
- 医師法第11条第3号における外国の医学校の医学を履修する課程に在学する者

※就業義務のある他の修学資金との併用不可 ※出身地は問いません

応募時期 随時受付。在学中でも応募可

貸与額

月額：20万円(例 20万円×12ヶ月×6年=1,440万円)
入学一時金：240万円(希望者)

貸与期間

大学、大学院若しくは外国の医学校の正規の修学期間内

貸与期間と市内医療機関での勤務義務期間

貸与期間	1年	2年	3年	4年	5年	6年		入学一時金貸与
勤務義務期間		3年		4年	5年	6年	+	1年加算

【猶予制度】

- 引き続き大学等に在学しているとき
- 臨床研修又は専門研修を受けているとき
- 育児休業、介護休業の期間
- 災害、疾病その他やむを得ない事由で市長が認めるとき



神栖市医師教育資金利子補給制度

神栖市医師修学資金貸与制度を受けている学生と同一生計の保護者を対象に、医科大学および医学部への修学のために、
金融機関等で受けた在学期間中の教育ローンの支払利子を支援します。(市内医療機関での勤務義務期間の加算なし)

対象者

神栖市医師修学資金の貸与を受けた者と同一生計の保護者のうち、次のいずれかの金融機関から教育資金の融資を受けた者

- 株式会社日本政策金融公庫
- 預貯金取扱金融機関

利子補給金の交付

利子補給対象借入限度額：3,000万円
利子補給率：融資資金にかかる支払利子の100%
(支払遅延にかかる利子等は対象外)

対象期間 正規の修学期間内(最大6年間)



地域赴任医師支援金特例加算

市修学資金制度利用者の方が義務期間終了後に引き続き市内の医療機関で勤務する場合は、地域赴任医師支援金 100 万円 × 3 年間で支給します。

神栖市での研修について

医学部を卒業後、総合的に研修する臨床研修が2年間必須となります。その後希望する診療科で専門研修を行います。
神栖市ではより良いキャリア形成やご活躍のために支援・サポートをしています。

研修例

医師年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年以上
	臨床研修		専門(後期)研修			サブスペシャリティ			
	基幹施設は茨城県内の臨床研修指定病院を選択。地域医療研修や一般外来、病棟研修など、市内医療機関で行う。		基幹病院の内科専門プログラム等を選択。連携研修先市内医療機関で内科等の疾患全般を経験する。			市内医療機関で勤務しながら、循環器のサブスペシャリティ取得を目指す。			

白十字総合病院、神栖済生会病院は協力型・協力施設の臨床研修病院として臨床研修医を受け入れています。

専門研修プログラムとは

専攻医の専門医取得までのプロセスを、きめ細かくトータルにサポートする研修制度

専門研修施設群とは

専門研修基幹施設と専門研修連携施設群からなる研修施設群で、研修カリキュラムに沿って目標に到達できるように専攻医を育成
神栖済生会病院、白十字総合病院、鹿嶋ハートクリニックは各基幹施設の専門研修連携施設群に属しています。
専門(後期)研修修了後は、各医療機関でサブスペシャリティの取得も可能です。